

令和6年度 学校関係者評価書(様式)

下線は前年度評価からの改善点 児:児童アンケート 保:保護者アンケート 教:教職員自己評価

鈴鹿市立玉垣小学校			
評価項目	本年度の活動(具体的な手立て)と指標	関係者評価	今後の改善点
学力向上×ICT活用	1. 授業改善 ・学級集団づくりを中心とした研修の推進 →実践研究の実施(教100%) ・学調、みえスタの学力分析結果をもとにした授業改善の取組推進 →学調結果、分析結果を活かした改善策の検討と実践(教100%) ・ICT活用による授業改善の推進 →日々の授業への積極的な活用(教100%) →教員の活用差を解消するためのICT校内研修(年3回以上) 2. 基礎学力の向上 ・児童が楽しくわかる授業の工夫と反復学習等を活用した取組の推進 →「分かりやすい授業を工夫し、基礎学力を身につけているか」(保90%以上) ・家庭学習(児童が意欲的に取り組むようになる課題の工夫)の推進 →家庭学習の調査 年3回「家で勉強しているか」(児90%以上), 「家庭で十分に学習しているか」(保80%以上) ・読書指導の充実(朝読による落ち着きのある1日の始まり) →ブックトーク 各学年年1回以上 年間平均読書冊数 低学年100冊以上 中・高学年50冊以上) ・図書掲示物の定期的更新や本に興味を持たせる図書館だよりの工夫及びファミリー読書の推進 (成果と課題) 1 授業改善 ○人のことを大切に想って聴く学級集団づくりを研修主題として、学校全体で共通意識を持って取り組むことができた。また「チーム担任制」の意識を持ち、学級担任だけで児童対応するのではなく、学年担任として全児童に関わることができた。 ○学調、みえスタの採点・分析を全校職員で行い、自校の強み・弱みを再確認できた。 ▲教職員アンケートより、全国学力・学習状況調査やみえスタディチェックの結果を分析し、改善策を検討して実践できたかの質問で実践したという回答が73%であった。目標は100%なので具体的な改善策を職員会議、部会などで取り上げていく必要がある。 ○教職員のアンケートより担任はじめ教員全体でICTの活用(80%)が進んでいる。また、ICT支援員さんに研修をしていただけている。(今年度3回実施) ▲全体で100%の活用が目標にあるため、来年度以降も教員全体でICTを推進していく。(ミニ研修等の回数を増やすなど) 2 基礎学力の向上 ○読書指導についてブックトークは図書巡回指導員も活用しながら低学年に実施。 ▲高学年のブックトークの実施は授業時間数的に厳しかったが、もっと担当から声をかけることができたらよかった。 ○一人当たりのおよその年間読書冊数(1/14時点) 1年生100冊 2年生100冊 3年生40冊 4年生40冊 5年生30冊 6年生20冊 ▲今年度から3年生以上で朝学実施により読書の時間がさらに減少した。記録する習慣がなかなかつけられなかったのが課題。3学期に記録を促すイベントを実施予定。 ○年間貸出冊数(生徒計)12月現在 1年生 3794冊 2年生 4269冊 3年生 2110冊 4年生 1549冊 5年生 1850冊 6年生 545冊 昨年度12月末と比較すると貸出冊数が全体で1188冊増えた。図書室でのイベントが図書の授業のない3年生以上の貸し出し冊数増につながった。 ○図書館だよりの発行(年3回)やファミリー読書の取り組みを行った。 ○図書館内に季節やイベントに合わせた掲示物の掲示をした。	○ICT活用事例を見たい。他にどんな活用事例があるのか研修してはどうか。 ・読書感想文の学習はどのようにしているのか。 ・「人のことを・・・」の中でも、何を大切に想うのか。(身体、気持ち等) ・分析、改善がどのようになれば100%なのか。到達の姿とは？ ○授業は学校の根幹だと思うので、目標が100%となっているのに実施できなかったとした教員に実施できなかった理由を具体的にあげてもらい、改善策を検討したらどうか。 ・低学年の読書量がたいへん多く、驚いた。時間がとりにくいかもしれないが、高学年になっても読書の習慣は続けてほしい。 ・小さい頃は絵本が大好きだったのに、大きくなるにつれて本を読む機会が減ったので、ファミリー読書週間は親としてありがたいです。 ・図書館の本がもっと増えてもいいのになと思う。(PTA会費からなのか？) ・「チーム担任制」とても良いと思います。色んな先生の手で子どもたちを見てもらえると、より子どものことがわかり、親としてうれしいです。 ・朝学があることを知りませんでした。 ・子どもが部分的な事「ドッジボールをした」などしか話さないのので、学校のことを色々知れてとても勉強になります。 ・朝、読書の時間を少しでもとることができれば良いと感じました。 ・家庭学習＝宿題と思っているのでは？10分間読書で、読書したと思っているのでは？基礎学力を身につけさせるために、粘り強く取り組む必要を感じます。ファミリー読書を含めた家庭学習の充実が必要です。 ・基礎学力向上の児童が楽しくわかる授業の工夫と反復学習等を活用した取組の推進のアンケート結果で90%以上の保護者がわかりやすい授業を工夫し基礎学力を身につけているとしているのは、普段の先生方の取組の結果であると評価できると思います。 ・今後も効果的、持続的なICT活用に取り組んでほしい。 ・ますます「楽しくわかる授業の工夫」の取組から「楽しい学校」を推進してほしい。 ○「家で勉強していない」18%の児童の理由を考え、工夫する必要がある。「取り組みなくなる課題の工夫」の例を教師間で情報交換する場があるとよい。 ○この読書冊数の根拠は何ですか？中高学年50冊以上にならなかったが、冊数ではなくて、個人、ジャンル、内容によるので、それによってどんな効果が出たかが重要だと思う。学習中に活かされた例があればよい。	・学調やみえスタで見えてきた課題を、具体化し、重点取組を全教員に周知徹底する。 ・ICT活用を促進するために教職員向け自主研修会を定期的に開催する。取り組みなくなる宿題も含めて、実践好事例を紹介する。 ・読書記録をとる目的は、現状「児童一人あたりの年間読書平均冊数」の把握である。子どもたちが主体的に記録するための目的を設定する必要がある。 ・記録する内容や方法を簡素化することで記録向上につなげたい。
	1. 不登校の未然防止・早期発見・即時対応できる組織の充実 ・欠席情報、児童観察・家庭訪問等の情報共有(教100%) ・担任と児童支援担当、養護教諭、SC、SLS、管理職、関係機関との連携充実(教100%) ・対象児童の一時的な居場所「ほっとルーム」の活用推進 (成果と課題) ○昨年度に比べて不登校傾向児童の数が減少に向かった。 ▲児童支援担当の人数が少ないため、「ほっとルーム」にきている児童とのバランスが取れていない。 ▲ほっとルームが午前中しか開室できていない。	・ほっとルームでは学習も取り入れているのか。 ・玉桜まちづくり協議会青少年育成部で不登校かふえ～学校に行きづらい子と親の会～を開催している。悩みを抱えている保護者に無理のない範囲で紹介してほしい。 ・「ほっとルーム」ができたことで、子どもたちが安心して登校でき居場所ができていることはあすごいいいことだと思う。担当の人数が少ないとのことですが、ほっとルームに来る生徒はたくさんいるのですか？どこも人で不足ですが、改善されるといいですね。 ・外部関係機関や幼小中の連携をとりながらの対応をお願いします。担任一人で背負わず学校全体全職員で対応するようお願いします。 ・よい試みなので今後も続けて居場所作りを進めてほしい。	・児童支援担当者の人材確保が可能であれば、ほっとルームの午後の対応も検討していきたい。
	1. 地域との協働による活動の展開 ・学校運営協議会による熟議の推進(「通学路の安全」「教員の働き方改革」等を協議) ・学習支援ボランティアの充実(各学年年3回以上) 2. 安全・安心の学校づくりの推進 ・児童の安全・安心を中軸とした地域や関係機関との連携強化 →PTA・地域による登下校見守り(毎日)、防災・防犯訓練 年4回, 「子どもを守る家」の点検年1回 通学路危険箇所点検年1回 ・全職員による自己評価及び学校関係者評価の実施(教100%) 3. 学校運営協議会の協議内容等の発信 →学校だよりや学校HPでの発信100%, HP更新の連絡 (成果と課題) 1. 地域との協働による活動の展開 ○学習支援ボランティアについて、ボランティアさんの都合のつく時間に希望の学年には年3回以上の協力を得て行うことができた。 ▲ボランティアさんの人数が限られ、希望の3分の1ほどしか実施できなかった。人数が増えるように募集に努めたい。 ○学校運営協議会では地域の連携を目指す中、今年度は中学校区4校で行うことができた。 ○登下校、学習、図書など様々な場面でボランティアの協力を得ることができた。 ▲新規の方に参加いただいたが、学習ボランティアについて、各学年に十分配置することは難しかった。 2. 安全・安心の学校づくりの推進 ○安心・安全見守り隊による登下校の見守りを毎日実施。地区委員による下校指導 年6回実施。地域の方の支援・協力を得た。 ○通団会を1回実施。危険箇所や「子どもを守る家」の確認を含めて指導できた。 ○PTA地区委員による通学路を含む校区危険箇所点検を1回実施。 ○全校で避難訓練(地震、火災)を年3回実施。自他の安全を確保できる能力 及び 非常事態に際して、適切に判断し、対応できる能力・態度を身につけることができた。 ○不審者対応訓練を1回実施。不審者が侵入した場合の教職員と児童の動きを確認した。 ○引き渡し訓練を1回実施。緊急時における対応を確認することができた。 3. 学校運営協議会の協議内容等の発信 ○学校だより等をHPにて配信することができた。来年度以降配信方法が変わるが、引き続き学校からの発信を積極的に行っていく。	○子どもを守る家の人を学校に招いて、お礼の作文を渡してはどうか。 ○子どもたちから不審者についての聞き取りを定期的に何度かやってはどうか。 ・今年度の下校時に校門前に校長先生が立って交通整理をしていただき、ありがとうございました。本来、公民館の駐車場に停められるのは困りますが、保護者の車を探して公民館と小学校の間をウロウロする子が多く、サークル生の出入りの時間と重なることもあり、非常に危険です。来年度も交通整理の対応をよろしくお願いします。 ・地域の皆さんやボランティアの皆さんのおかげで子どもたちの安全が守られていることに感謝いたします。今後もずっと続けてほしいです。 ・年に3回も避難訓練を下さっていること、今後も減らすことなく続けてほしいです。 ・学習ボランティアさんの人数が足りていない。募集の回覧を見たことはあるが、もっといい方法はないものか。 ・防災に対する意識が高まる中、避難訓練を年3回行う等、非常事態に対しての適切に判断し対処できる能力態度を身につけることができたことは評価できると思います。 ・情報交換・お願いだけでなく＋αは何か。 ・希望のあったクラスに週1回以上ボランティアをすることができました。ボランティアさんの人数が増えるよう募集の方法等、工夫していきたい。	・安全・安心の学校づくりの推進は成果が出ているので、今後も地域と協力しながら続けていく。 ・学校の働き方改革も踏まえ、学校・保護者・地域ができることを今後も協議していく。
長欠減少			
地域連携			

評価項目	本年度の活動(具体的な手立て)と指標	関係者評価	今後の改善点
非認知能力育成	1. 非認知能力育成を視野に入れた学級集団作りの推進 ・担任及び学年担任団からの指導・支援の工夫 ・学年会(週1回)や校内研修会(年3回)での情報交換 2. 道徳や人権教育をもとにした非認知能力の育成 ・自己肯定感ややりぬく力等を高める授業や取組の工夫 ・鈴鹿市版非認知能力アンケート「自己肯定感」児童の否定的回答10%以下(昨年度16.8%) (成果と課題) 1. 非認知能力育成を視野に入れた学級集団作りの推進 ○教職員アンケートでは、100%の教職員が「一人ひとりのよさを認め、自己肯定感を高めるような取組ができた」と回答しており、非認知能力育成を視野に入れた「聴き合える学級集団づくり」を「チーム担任制」で目指すことができた。 ○学年会の充実、授業を見合う時間の確保、学年に一人ずつの特別支援コーディネーターの配置などにより、学年・学校全体で情報を共有し、一人ひとりの困り感に寄り添って支援・指導ができた。 ○自己肯定感の研修をした。自己肯定感の高さは重要だが、自己肯定感が低くても、悩みを相談しあい、支えあえる仲間がいることが大切であるという姿勢で子どもたちに向き合った。 2. 道徳や人権教育をもとにした非認知能力の育成 ○道徳の授業において、教科書等を活用しながら非認知能力の向上にむけて取り組みを行うことができた。	・非認知能力育成を視野に入れた学級集団づくりはとても大切だと思うが、評価が難しい。 ・集団でなくても一人一人の非認知能力も伸ばして欲しい。 ・今は「自己肯定感」とよく言いますが、低くても何が大切なのか教えてくれる玉垣小の姿勢がうれしいです。 ・今年は何%?(→11.1%) ・すばらしい。忙しい中時間の確保ができているのかが心配。	・非認知能力の育成に関しては、鈴鹿市教育委員会から出している教材等を活用して今後も取り組みを進めていきたい。
豊かな心の育成	1. いじめが生まれにくい学校づくり ・仲間づくりを通した人権教育の推進 →「学校で友達と仲良く生活できているか」 児95%以上 「お子さんの交友関係は良いと考えるか」 保95%以上 「一人ひとりを大切にしたい教育を行っているか」 保90%以上 「一人ひとりの良さを認め、自己肯定感を高める取組をする」 教100% ・担任、相担、養護、児童支援、管理職、SC、関係機関等とも連携した相談体制・見守り体制の構築 →「困っているときや相談したいときに先生に話ができるか」 児90% ・あいさつ運動の推進(児童が中心となる取組+月3回教師によるあいさつ運動) →「学校であいさつをしているか」 児95%以上 「お子さんは家庭・地域であいさつをしているか」 保90%以上 ・多文化共生教育の推進→各学年の取組 年1回以上 - 国際週間への参加 全校児童70%以上 - JSL保護者会 年1回 保護者参加率50%以上 2. 特別支援教育の推進 ・特別支援教育の視点を活かした「分かりやすい」授業づくり(教100%) ・支援会議、ケース会議、教育相談の充実 ・交流学級担任会、特別支援教育に関わる研修会の実施(各年1回以上) ・配慮が必要な児童に対する特別支援教育コーディネーター部を中心とした早期支援体制の構築 (成果と課題) アンケートから 質問内容と肯定的意見の割合 ○目標値以上 ▲目標値未満 ○「学校で友達と仲よく生活できていますか？」 児96% ▲「お子様の交友関係は良いとお考えですか？」 保94% ○「玉垣小学校は、一人ひとりを大切にしたい教育を行っていると思われますか？」 保95% ○「一人ひとりのよさを認め、自己肯定感を高めるような取組ができた」 教100% ▲「あなたがこまっているときや、相談したいとき、学校の先生、担任の先生に話をできていますか？」 児84% ▲「学校で「あいさつ」をきちんとしていますか？」 児93% ▲「お子様は家庭・地域であいさつをしていますか？」 保87% ○「特別支援教育の視点を意識した「分かりやすい」授業づくりをしましたか。」 教100% 1. いじめが生まれにくい学校づくり ○子どもたちの仲間づくりを意識するとともに、子どもたちの人権課題を意識して人権教育を実践した。 ▲「困っているときや相談したいときに先生に話ができるか」でできる、どちらかといえばできると答えた児童は84%で目標値には達成しなかったが、SCへの相談に子どもが来談希望しつながったケースがあった。SCへの相談が保護者だけではなく、児童の相談数も増やすことが課題。 ○児童が中心となる取組として生活委員会を中心に、日常的に昇降口や教室でのあいさつ運動を実施。また、月3回教師によるあいさつ運動を実施する際、可能な限り、学級の児童と行った。6年生が家庭科の「地域の一人員として自分ができること」の学習で、地域の人にあいさつをする取り組みを意識していた。なので、普段から地域の人にあいさつをする意識があると感じた。 ▲児童・肯定的回答93%、保護者・肯定的回答87%であり、目標を達成することはできなかった。 ○保護者の肯定的回答が昨年度と同じであり、地域でのあいさつは昨年度と変わらずできている。 ▲児童の「あいさつをしていない」「あまりしていない」の否定的回答が、前年度と同じであった。あいさつを返すことはできている児童が多いが、自分からあいさつをする児童はまだまだ少ないので、「自分から」ということを来年度に生かしていきたい。来校者やかわりの少ない教職員など、あまり知らない人にはあいさつができないことが多い。なので、防犯上の観点からも、あいさつの大切さを伝え、自分からあいさつができるように指導していく。 ○JSL保護者会を入学式後に実施。メール登録や書類の確認等を行った。登録書類を全員が完了できた。 ○JSL保護者会には50%以上の保護者が参加できた。 ▲全言語に対応することが課題である。 ○各学年年1回以上多文化共生教育に取り組むことができた。 2. 特別支援教育の推進 ○特別支援教育の視点として、具体物を提示するなど視覚的に支援する手立てを講じて授業づくりに取り組んでいる。 ○教育相談がとても充実していた。空き時間を使って気軽に足を運ぶことができた。 ○特別支援コーディネーター部会を中心にして、保護者のニーズを察知してからフットワーク軽く支援会議やケース会議を行うことができた。また、管理職や専門機関とも連携して行うこともできた。 ○週に1回、空き時間を活用して特別支援コーディネーター会議を開くことで、他学年の様子や困り感を素早く把握し共有することができた。 ○夏休みに児童の様子をもとに研修会を実施した。また、講師として特別支援学校の教員を招くことで、2学期に生かせることを学ぶことができた。	・見知らぬ人への挨拶は避けられないし、難しいですね。 ・特別支援教育は押し付けではなく、非認知能力を内側から引き出すのが大切ですね。 ・84%が担任に話をできたのはすばらしいが100%を目指してほしい。 ○障がい者指導されている絵とか音楽の指導者を招いてお話や指導を受けてもいいですね。 ・年に数回CTL活動に参加していますが、実感として低学年の方がよく挨拶してくれると思います。高学年は恥ずかしいかもしれません。 ・CTL運動でも、挨拶してくれる子が多いので、今後も挨拶の指導を続けていただきたいなと思います。 ・JSL保護者会、今はこのようなこともしているのですね。日本語のわからない親御さんにとつたら、とてもありがたいことだと思います。 ・いじめが生まれにくい学校・学級づくりをこれからもお願いしたい。 ・挨拶運動のボランティアを何年かさせてもらっているが、以前に比べて挨拶してくれる子どもさんが増えました。元気をもらえます。 ・アンケート結果から「学校で友達と仲良く生活できていますか。」との回答が児童で96%あるのは、普段の先生方の取組、仲間づくりの意識、人権課題の意識の教育の結果だと評価できると思います。 ・教職員の皆さんの今までの努力の成果だと思います。自信をもって今後も取り組んでください。 学校へ近くなるほど、元気な声の挨拶になるような気がする。学校には不思議な力がある。「よし」とスイッチが入るのだろうか。 ・いじめが生まれにくい学校づくり、非認知能力の育成の中で多文化共生教育も進んでいくので、数字にこだわることはない。	1. いじめが生まれにくい学校づくり ・保護者に向けての啓発だけでなく担任にもSCの来校をさらに周知し、子どもがSCに相談できるようにしていく。 ・教員によるあいさつ運動を学級の児童とともに行うことを継続して行う。 ・自分からあいさつができるようになるために、教師側から指導をするだけでなく、児童発信のあいさつの取り組みを行っていく。各学級や各学年での取り組みを学校全体にも広げていけるよう、生活づくり部会などの会議で、自分の学年等の取り組みを共有し、他学年へつなげていく。 ・子どもの自己肯定感を育成できるように児童や保護者の実態を把握していく。日々の声かけや意図的な授業に取り組んでいく。 ・外国にルーツがある子が多く在籍しており、今後も違いを豊かさとして捉え共に生きるものとして考え、行動していくような授業を推進していく。 ・来年度も具体物を提示し視覚支援するなど、ユニバーサルデザインの授業づくりに取り組んでいく。 2. 特別支援教育の推進 ・特別支援コーディネーターが各学年中心になって、困り感のある児童を学年全体で見えていくようにする。また児童に困り感などが出たらケース会議を開く。保護者とも連絡を密に取り支援会議を開くことができるように、来年度も積極的に学年で情報共有していく。
健康でたくましく生きる力の育成	1. 体育・保健指導の充実 ・投擲力や持久力を高める運動や取組の実施 ・体力テストの実施→結果の県平均以上 ・養護教諭・栄養教諭と連携した健康教育・食育の推進(各学年年1回以上) ・命・環境の大切さを学ぶ機会の確保(各学年年1回以上) 2. キャリア教育の充実 ・未来応援人や地域人材活用授業実践(「出会い学習」の充実)(各学年年1回以上) ・キャリア・パスポートの作成(各学年年1回以上) ・異学年交流や児童会活動等の推進(各学年年1回以上) (成果と課題) 1. 体育・保健指導の充実 ○休み時間に運動場を投擲と走る運動ができるスペースに分けることで安全に配慮し運動することができた。 ▲通年の中で学校として持久力を高める運動を計画していく。 ○健康教育、食育ともに各学年2回以上実施した。 ○環境教育全学年実施した。 ○命の良さを各学年を教材をして学習することができた。 2. キャリア教育の充実 ○ペア掃除や日々の学習でペア学年とともに学ぶ機会を作ることで、上の学年はリーダー性を身に着けたり、自分たちで企画・運営をする力を身に着けることができた。下の学年は、上の学年をお手本に、学校生活のよいおくりかたを学ぶことができた。 ○出会い学習は各学年1回以上実施でき、良い学びを得られた。 ○キャリアパスポートも適切に作成できた。 ▲一年間ペア掃除をしている割には、子どもたちのつながりが少ない。	○昔は校内マラソンをやっていたが、今でも少しくらいの運動(運動場を2周走る等)やってみたらどうか。 ・薬物や防犯教育も大切ですね。 ○体力テストの結果内容を保護者にも知れたら良いのになと思います。 ・ペア掃除、とても良い取組だと思った。 ・学校保健委員会に出て、先生方の日頃の努力がわかり、感謝しています。 ・キャリアパスポートは何のために、だれがどう活用？時間あるの？ポートフォリオとの違いは？ ・地域での親のつながりのなさ子どもたちに出ているのでは？	1. 体育・保健指導の充実 ・健康教育、食育ともに継続して行っていく。 2. キャリア教育の充実 ・ペア掃除をしている割には子どもたちのつながりが少ないことについては、ペア掃除ともくもく掃除を同時に行おうとしているからであると考えられる。つながりが生まれるようにするために、今後はペア掃除をメインにして継続指導していきたい。 ・来年度も地域の「ひと・もの・こと」を大切にし、自分のふるさとを好きになるような出会い学習を継続して進めていきたい。 キャリアパスポートは、自分の成長を見つけていくことで将来の夢や希望につながっていけるようにしていきたい。